

新学習指導要領（小学校外国語について）

1 目指す外国語教育

英語を媒介として、国際的に活躍できる人材の育成

これからの時代を生きる子どもたちには、ただ英語を「話せる・使える」だけではなく、「話して・使って」何ができるかがより強く求められる。

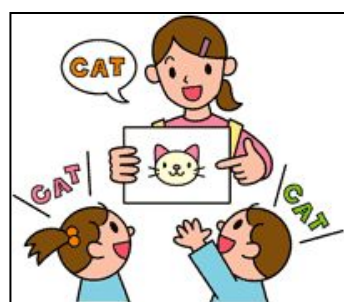
このことについて、学校教育の可能性や影響は、限りなく大きい。

子どもにリアルなコミュニケーションを体感させたい

言語はコミュニケーションのためにあり、相手がいて初めてその必要性が生まれる。

子どもたちの前で、2人の大人が外国語を用いて伝え合う姿を見せることが大きな効果を生む。

やり取りを見た子どもたちが有用性を感じ、興味・関心が高まることで、子ども達を自主的な学習者へと変える。



二人目が加わると、よりリアルで活発なコミュニケーションに繋がる

2 目指す小学校教師

(1) 小学校教員の実態から

授業では、授業者自身が、その教科・領域を好きで大切にしているという思いを子どもに伝えることが、教育の効果を高める。

このようななか、外国語の指導については、教わった、教えた経験、またその教え方を教授されていないことから、「不安・苦手・嫌い」とする教員が多い。

(2) 目指す教師

小学校の教員を、英語で独り立ちさせる

担当者の集合研修を実施するほか、指導主事派遣・人的支援（ALT・外国語活動支援員）により、校内研修を支援する。

3 目指す中学校教師

中学校の教員は、授業を英語で行うことを基本とする

生徒を、生きた英語に触れさせ、言語学習の意義を体感させる。

また、授業で学んだ内容の成果を発揮・検証する機会（パフォーマンステスト）を設けるなど、実践的な経験を豊富に積ませて、達成感を次の学習につなげる。

4 学校支援体制の構築

(1) 教える内容の明確化

文部科学省作成新教材及び指導書の活用

新たな小学校中・高学年用補助教材『Let's Try!』（3・4年生）及び『We Can!』（5・6年生）は、英語教育を専門とする有識者により作られたものであり、作成の意図を汲み取って指導するには、専門的な視点が必要となる。

平成30～31年度の2年間は、先行実施・移行期間の学校が混在することから、それぞれの学校における教育課程の編成や、指導内容・順序等について、柏市教委で指針を示していく

「評価」への準備

平成32年度からの全面実施により、小学校高学年では評価が必須となる。

平成30～31年度の2年間で、柏市教委で情報を整理し提供していく。

(2) 人的支援の充実

A L T と外国語活動支援員の増配置

子どもにとって

A L T は、「外国語」や「世界のさまざまな文化」との出会い

外国語活動支援員は、「英語を使いこなす日本人」のモデル

教師にとって

外国語活動・外国語の授業の質の向上を支援するトレーナー

言語指導者のモデル

リアルなコミュニケーションのある授業の実現

小 教員が英語で独り立ち
中 授業を英語で実施

英語を媒介として、国際的に活躍できる人材の育成